

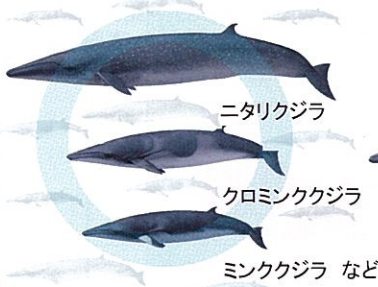
ち ょ う さ ほ げ い

調査捕鯨は 貢献しています

水産食料資源の利用と
将来の食料問題解決
のために

豊富なクジラは利用

少ないクジラは守る



なぜ調査をはじめたの？

クジラの国際的な管理機関である国際捕鯨委員会(IWC)は、1982年に商業捕鯨を一時中断することを決定しました。

それは、反捕鯨国がクジラの管理に必要な科学的データが不足していると主張したからです。

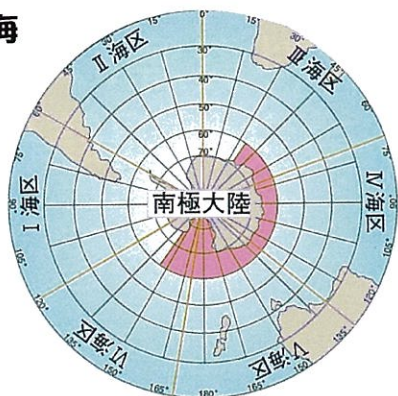
そこで、日本はクジラの資源状態を調べるために「調査捕鯨」※を1987年から開始しました。

捕鯨再開に向けた調査捕鯨は、国際捕鯨取締条約の第8条で認められている正当な活動です。

※ 正式には「鯨類捕獲調査」と呼びます。

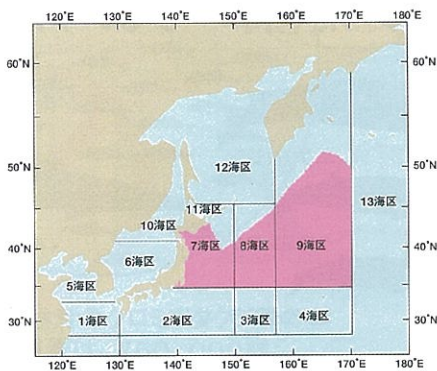
— 日本が調査している2海域 —

1. 南極海



ローマ数字はIWCの管理海区

2. 北西太平洋



数字はIWC科学委員会が定めた海域区分

どんな調査なの？

1. 南極海での調査捕鯨

調査期間：

約4カ月(12月～翌年3月)

南極海は、大量に発生する動物プランクトンを求めて、たくさんのクジラや他の生き物が集まる生物資源の宝庫です。

将来の食料不足に備えるためにもクジラの分布や資源の動向などを調べています。

捕獲対象種
(計画数)



ナガスクジラ
(50頭)



ザトウクジラ
(50頭)



クロミンククジラ
(850頭±10%)

2. 北西太平洋での調査捕鯨

調査期間：

約3カ月(5月～9月の間)※

日本の周辺海域は、世界でも有数の漁場で、たくさんのクジラがエサを求めて回遊して来ます。

この海域では、クジラの管理だけでなく、漁業とクジラが同じ水産資源を獲り合う問題を明らかにする調査も行っています。

捕獲対象種
(計画数)



イワシクジラ
(100頭)



ニタリクジラ
(50頭)



ミンククジラ
(100頭)



マッコウクジラ
(10頭)

※ このほか、沿岸でも調査を行っています。

3. 調査捕鯨は総合調査

調査捕鯨は、クジラを捕獲しなくてもできる(非致命的)手法も総合的に組み合わせています。



- ・目視調査
- ・衛星標識による追跡調査
- ・表皮で調べるDNA調査
- ・エサとなる生物の資源量調査

なぜ調査でクジラを捕るの？

1. クジラを捕る調査は必要

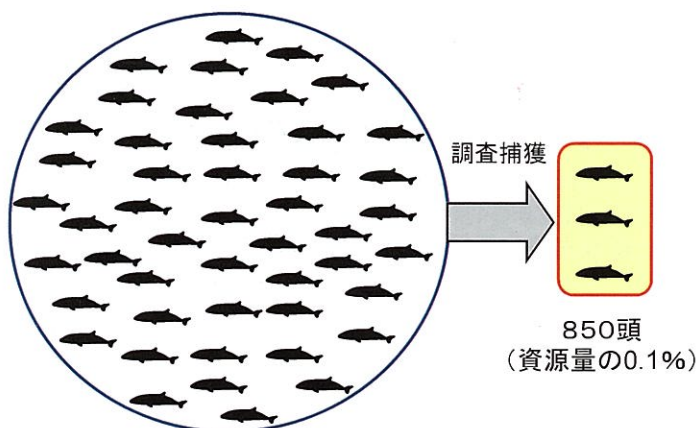
クジラの年齢や胃の内容物などは、クジラを捕って調べることでわかります。

特に、南極海の生態系は急激に変化しており、科学的に正確なデータを短期間で得るためには、クジラを捕って調べるのが不可欠です。

項目	捕る調査	捕らない調査
科学的データ	大量に得られる	少量のみ
調査期間	短期間で済む	長期間の調査が必要
調査経費	少額で済む	多額の費用が必要

2. 豊富なクジラのほんの一部を捕獲

調査で捕るクジラの数、科学的に信頼できる成果を得るために、統計学的に適切な頭数を計算して決められています。

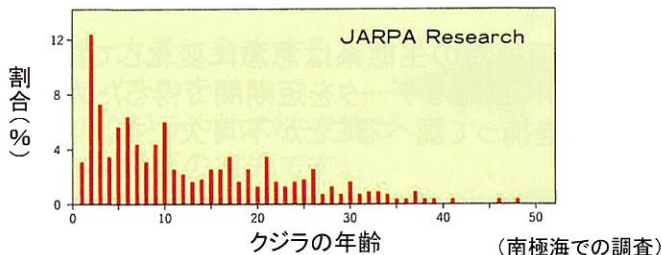


例えば、南極海のクロミンククジラの推定資源量は、760,000頭

何がわかってきたの？

1. クジラの年齢構成

たとえばクロミンククジラは、若いクジラがたくさんいて、健全な資源状態であることが、調査捕鯨ではじめてわかりました。



2. クジラの胃から大量の魚やイカ

人間が利用している水産資源を、クジラが大量に食べていることが、調査捕鯨ではじめてわかりました。



サンマ



マサバ



スルメイカ

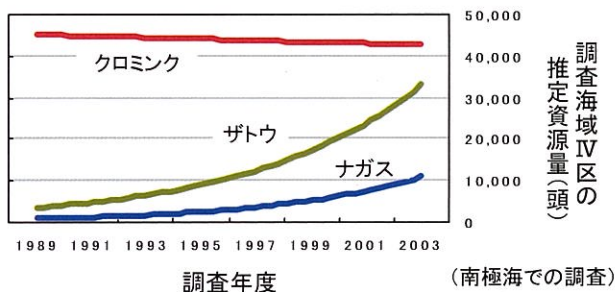


カタクチイワシ

(北西太平洋での調査)

3. クジラの資源量の変化

クロミンククジラは高い資源水準にあり、ザトウクジラなどは、目覚ましく資源が回復していることがわかりました。南極海の生態系は予想以上に急激に変化しています。



何のためにやっているの？

クジラに関する詳細な科学データを提供できるのは、世界でも日本の調査捕鯨だけです。日本の調査捕鯨は、多くの科学者から高く評価されています。

1. 豊富なクジラ資源を 持続的に利用するため

たとえば南極海には、非常にたくさんのクジラがいることがわかりました。

クジラは、管理しながら捕れば、資源に悪影響を与えずに人類に多くの食料をもたらし、将来の食料問題の解決にも大きく貢献します。

2. クジラと漁業との 競合関係を解明するため

クジラは、人間が利用している水産資源を大量に食べています。

漁業者も、調査捕鯨によってクジラが漁業におよぼす影響を明らかにし、海の生態系をバランスよく利用できるようになることを期待しています。

3. 地球温暖化の影響を 調査するため

クジラがすむ海洋環境も一緒に調査することで、人類が直面している地球温暖化などのグローバルな環境問題の解明にも貢献しています。

日本捕鯨協会

東京都中央区豊海町4-18 東京水産ビル5階

TEL: 03-5547-1940

ホームページ: <http://www.whaling.jp/>